昆虫の色の種類に応じた標本づくり

夏になると、たくさんの虫が動き回り、昆虫採集を楽しむことが出来ます。虫の標本を作るときは、虫の色をきれいに保つために、色の種類に合わせた保存が必要です。今回は、虫の色と標本の作り方を紹介します。

【こうちゅう（カブトムシやクワガタ）】

こうちゅうの色は、メラニンとオモクロームという色素で決まります。

メラニン：黒や茶色の色で、こうちゅうの体に多くあります。紫外線からからだを守ります。

オモクローム：赤や黄色の色で、こうちゅうの目やからだにあります。視覚にも関係しています。

【チョウやガ】

チョウやガのはねの色は、色素だけでなく、構造しょくという仕組みでも作られます。

構造しょく：はねの表面にある小さな構造が光を反射して色を作ります。

モルフォチョウ：青い構造しょくで有名です。見る角度で色が変わります。

ウラギンシジミ：金属のような輝きを持つ構造しょくです。

【トンボ】

トンボの色は、オモクロームという色素で決まります。

酸化型オモクローム：黄色やオレンジ色です。

還元型オモクローム：赤や赤紫色です。

トンボの色は、成長や環境で変わります。例えば、アカトンボのオスは成長すると、黄色から赤に変わります。この色の変化は、繁殖や縄張り争いに重要です。

標本の作り方

昆虫の色の種類に応じた標本づくり

【材料と道具】

・つかまえた昆虫 ・透明なビニールフィルム　\*1・昆虫ばり　\*1 ・ピンセット　\*1　・発泡スチロール板　\*1 ・乾燥剤　\*1　・マチばり　\*2　・標本箱\*2・てんしばん\*2

\*1百円均一ショップで買えるもの、\*2志賀昆虫普及社（品川区平塚2丁目5番8号）で買えるもの

こうちゅうわ昆虫ばりを胴体の真ん中に刺したあと、発泡スチロール板に刺して固定します。脚や触角の形を左右のバランスがよくなるようにマチばりを使ってととのえます。形がととのったらマチばりを外し、昆虫ばりに刺した状態で標本箱にうつし、乾燥剤を入れて保管します。

チョウやガは昆虫ばりを胴体の真ん中に刺したあと、てんしばんに刺して固定します。てんしばんの中央のくぼみにチョウやガの胴体を入れて左右のはねをビニールフィルムで押さえ、フィルムをマチばりでとめます。マチばりを少しずつ動かして左右のはねと触角のバランスをととのえます。りんぷんがきれいな色の元なので、りんぷんに触らないよう気をつけます。このまま乾燥させて、乾燥したら標本箱にうつし、乾燥剤を入れて保管します。

標本箱に入れて展示するときには、虫の名前、捕まえた場所、捕まえた日、捕まえた人の名前を書いた紙をそえましょう。

編集：あみた